

『ナレッジ・マネジメント研究年報』執筆要項

1. 原稿は日本語または英語とする。原稿はPCワープロソフトのワードで作成すること。書式はA4版横書きとし、文字サイズは、11ポイントとする（注・参考文献等は9ポイント）。表紙を除く原稿の全ページについて、ページ番号を連続して打つ。日本語原稿の場合、ページ設定は40字×32行とする。
2. 原稿はPCワープロソフトのワードで保存したUSBまたは、CD-ROMで1部（使用機種および使用ソフトのバージョンを明記）、ハードコピーで3部提出する。
3. 原稿は、表紙、要旨、本文（図表含）、謝辞、注、参考文献の順で構成する。
4. 表紙ページには次の内容を記載する。
 - ① 表題（日本語原稿の場合は、日本語と英語の両方）
 - ② 執筆者の名前、所属（日本語と英語の両方）
 - ③ 連絡先住所、電話番号、Eメールアドレス
 - ④ キーワード(5つ)
5. 日本語文および英語文原稿では、表紙ページの次の2ページ目に英語文要旨（300語以内）を作成する。なお、英語文については、事前にネイティブチェックを受けておくこととする。
6. 本文は、3ページ目から執筆する。本文の冒頭には、表題を書くこと。執筆者の名前や所属等は、書いてはならない。英文要旨、本文、図表、謝辞、注、参考文献を含めた原稿の分量は原則として日本語原稿で16500字以内（1ページ=40字×32行で、年報刷り上がり14ページ以内）、英文原稿で6500語以内（ダブルスペース、全てを含み年報刷り上がり14ページ以内）とする。（年報刷り上がり1ページは日本語原稿で1200字以内を換算の目安とする。）

図表は下記の要領で原稿字数に換算する。

 - ・刷り上がり2分の1ページ大の図表：19行×44字=836字
 - ・刷り上がり3分の1ページ大の図表：15行×44字=660字

（いずれもタイトル1行と注記1行を含む）

なお、編集委員会が掲載原稿のレイアウトに問題があると認めた場合には、そのページ数を調整することがある。
7. 図表は「図」（英語では“Figure”）と「表」（同“Table”）とに分け、それぞれ通し番号と標題を付け、本文中に挿入する。なお、表の中に使用する文字に限り、文字サイズは9ポイント以上とする。図表等には、出所を明記し、必要な場合注釈を付ける。

<例：日本語>図1 日本企業の知的財産権組織 <例：英語>Figure 2 R&D Productivity
<例：日本語>表3 川崎重工業の事業部門 <例：英語>Table 5 U.S. Oil Price
8. 英字および2桁以上の数字は原則として半角で打つ。数式、数値の記述は通常のシンボルを利用し、特別なシンボルは利用しない。なお、数式等については、一般の専門誌に利用される通常の約束事をこの原稿にも適用する。日本語原稿については、読点は「、」、句点は「。」を全角で打つ。但し、本文中の（ ）内と日本語参考文献については「，」と「。」を使用する。

9. コメント、助言、研究資金等への謝辞、または報告全体に係わる注で後注とするには適当でないものは、本文の後、注の前に謝辞として、スタリスク(*)をつけて配置する。

10. 本文に関する注は本文の後に配置する後注の形式をとり、下記のスタイルをとる。注番号は算用数字で連続して付ける。

<例>

【注】

1 本章の記述のうち、最近のアメリカにおける制度の変更について、尾崎英男氏の示唆を受けた。

2 詳細の解説については、たとえば尾崎英男（1991）『日本企業のための米国特許紛争対応ガイドブック』日本機械輸出組合、を参照。

3 ヘンリー幸田(1992)『日米特許紛争スーパーマニュアル』発明協会、63 ページ。

4 尾崎英男、前掲書、85-86 ページ。

11. 参考文献は正確に記載し、例示するようなスタイルとする。日本語文献と外国語文献は分けずにABC順とし、英語以外の外国語文献も英語文献に準じて記載する。外国語の書籍や雑誌名については斜体とする。

<例>

Bacharach, S. B. and M. Aiken (1976) "Structural and Process Constraints on Influence in Organizations: A Level Specific Analysis," *Administrative Science Quarterly*, December, Vol.21, No.4, pp.623-642.

Holton III, E. F. and Baldwin, T. T. Edit. (2003) *Improving Learning Transfer in Organizations*, NJ: John Wiley & Sons, Inc.

児玉文男(1990)「知的所有権部の戦略 4 新日本製鐵株式会社 知的財産部」『発明』第 87 巻第 5 号, 発明協会, 44-76 ページ。

Nonaka, I. and H. Takeuchi (1995) *The Knowledge Creating Company*, New York: Oxford University Press. (野中郁次郎・竹内弘高, 梅本勝博訳 (1996)『知識創造企業』東洋経済新報社)

Posner Barry (1987) "What Takes to be a Good Project Manager," *Project Management Journal*, March, Vol.34, No.1, pp.123-145.

高橋明夫(1983)『日立の特許管理:企業の未来を拓く特許とその戦略的活用』発明協会, 153-156 ページ。

Thamhain, H. J. and D. L. Wilemon (1986) "Criteria for Controlling Projects According to Plan," *Project Management Journal*, June. Vol.53, No.2, pp.75-96.